

ふるさとファイル

展示コーナーだより
第46号
平成23年4月
生涯学習課文化財係

栗生 光明寺 の再興



【展示期間】

* 4月2日(土)～5月15日(日)

光明寺の文化財

* 5月17日(火)～6月30日(木)

光明寺の再建と西岡大工小嶋氏の活躍

西山浄土宗総本山光明寺は、法然ゆかりの「浄土門根元之地」として、古い由緒を誇っています。今年法然上人八百年御忌にあたり、さまざまな催しが行われて関心が寄せられています。この機会に指定文化財になっているさまざまな宝物や、江戸時代の伽藍復興のようすを紹介します。



光明寺の文化財

光明寺には仏像や仏画、障壁画をはじめ、寺宝として丹精込めてつくられた「光明寺縁起絵巻」など貴重な文化財がたくさん伝わっています。

◆ 国の重要文化財

【絵画】二河白道図(鎌倉) 1幅 / 四十九化仏阿弥陀来迎図(鎌倉) 1幅

【彫刻】千手観音立像(平安) 1軀

◆ 市の指定文化財

【建造物】御廟・本堂・阿弥陀堂ほか全17棟(江戸)

【絵画】地蔵菩薩像(鎌倉) 1幅 / 仏涅槃図(南北朝) 1幅

地蔵菩薩像(室町) 1幅 / 羅漢図(室町) 2幅 / 楊柳観音像(室町) 1幅

光明寺縁起絵巻(江戸) 3巻 / 旧大書院・釈迦堂障壁画(江戸) 55面

【天然記念物】 柏榎(樹齢400～500年)



光明寺縁起絵巻(下巻第6段) 法然上人の遺骸を茶毘に付す



諸堂の再建と西岡の大工小嶋氏の活躍



光明寺焼失の図(小嶋正彦家文書)

◆ 中興の祖倍山俊意

戦国の争乱で衰退した光明寺の復興が本格的になってくるのは、17世紀半ばごろからです。

慶安4年(1651)に入寺し、中興の祖と仰がれる倍山俊意ばいざんしゅんいは、御廟や鐘楼をはじめ伽藍の整備を進めました。光明寺縁起がつくられたのも、このころのことです。

◆ 享保の一山焼失

享保19年(1734)11月18日、突然の災難に襲われます。客殿から失火した炎が、御影堂・書院・庫裏などを焼き尽くしたのです。この難を逃れて現存しているのは、御廟・拜堂、鐘楼、経蔵・中門で、この一山焼失後、再興への長い道のりを歩まなければなりません。

◆ 西岡の大工小嶋氏

小嶋氏は上植野(向日市)の大工で、光明寺の再建にあたり、18世紀中ごろから幕末にかけて、光明寺の御用大工として阿弥陀堂・総門・勅使門・大書院などの造営を担い、まさに光明寺再興の裏方として活躍しました。

小嶋家にはこの時に棟梁として作成した図面や帳面がたくさん伝わっていて、光明寺の大伽藍の歴史的価値を評価するうえで重要な役割を果たしました。

特に享保の大火以前と以後の大絵図は、光明寺の再興の足跡を、今の私たちに鮮明に語りかけてくれます。



小嶋家に伝わる光明寺普請関係文書(小嶋正彦家文書)